

平成27年度厚生労働省科学研究費補助金
(地域医療基盤開発推進研究事業)

第2回 全国在宅医療・介護連携推進フォーラム

1. 沖縄県での取り組み



一般社団法人浦添市医師会

浦添市医師会理事 浦添市在宅医療ネットワーク代表世話人
まちなと内科在宅クリニック 院長 大濱 篤

平成27年10月16日(金) アットビジネスセンター—東京駅八重洲通り 5階 501会議室

沖縄県 浦添市の概要

浦添市は沖縄本島中南部の境に位置し、南に那覇市、北東に宜野湾市、東に西原町が隣接しています。市域は、東西8.4km、南北4.6km、面積は19.30km²となっております。那覇市や中部地域への交通便が良く、県内では戦後最も人口が増加した自治体です。市西海岸地区には、米軍牧港補給基地や県卸商業団地など商工業が発達しています。また、琉球王朝発祥の地で、浦添城跡・伊祖城跡などの国・県文化財の史跡があり、歴史とロマン、自然が調和されている街です。

また県内でも4番目に人口が多く、平均年齢も若い、新住民や子育て世代が多いのが特徴です。その一方で高齢化率も年々上昇を続けており、そのスピードは急速となっております。

● 浦添市の概況



人口 約11万4千人 (県内4位)

総面積 19.48K^m² (県内28位)

花 オオバナアイアケカズラ

木 ホルトノキ

名産 桑茶など



行政区(=自治会) 40ヶ所

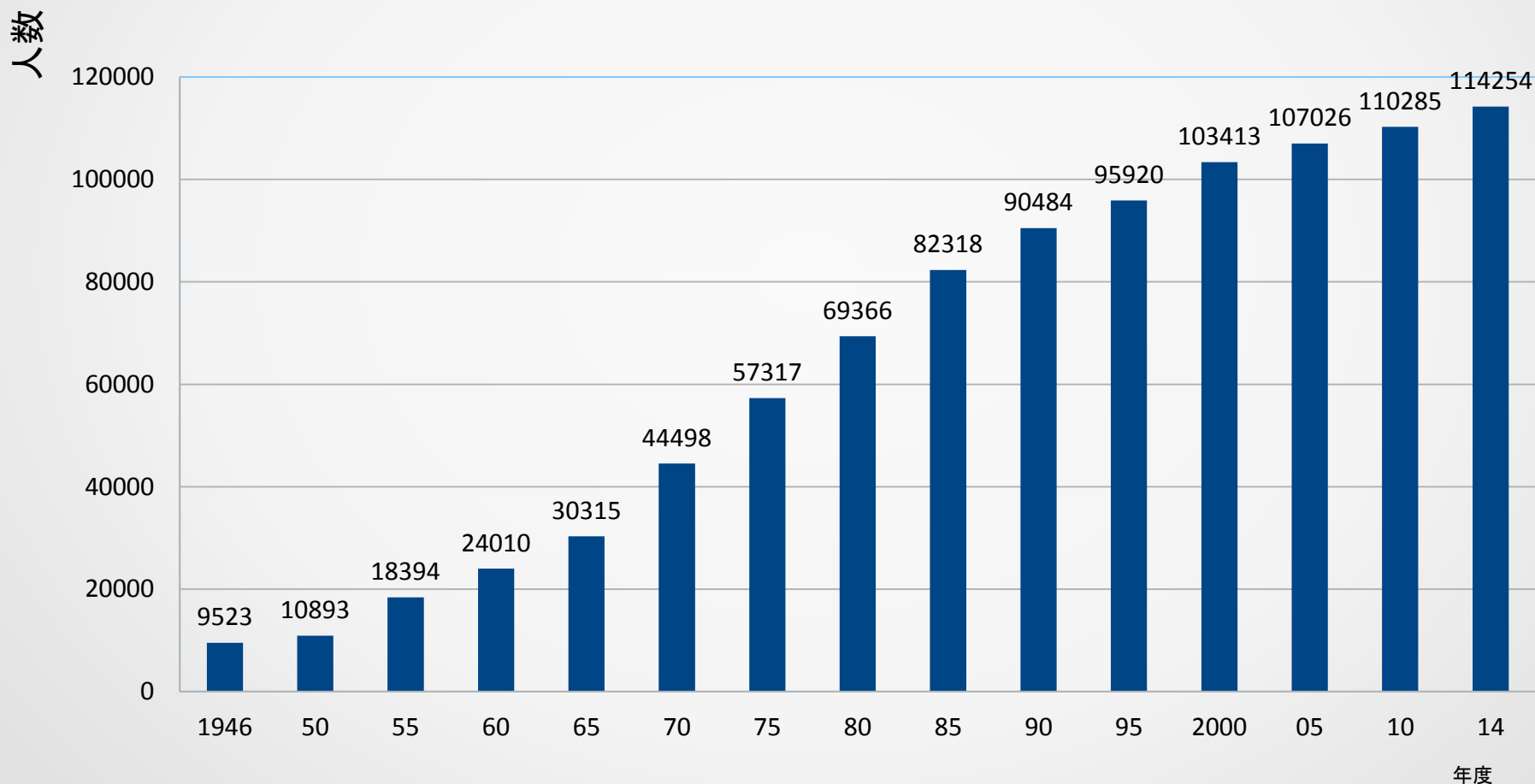
日常生活圏域

(≒中学校区) 5区域

日常生活圏域とは・・・

おおむね30分以内に必要なサービスが提供される区域(地域包括ケアシステム構築)

浦添市の人口推移



資料: 浦添市HP 企画部統計課(2014.11月末現在)

浦添市の高齢者の状況

平成27年3月31日時点

高齢者人口
18,563 人

高齢化率
16.3%

高齢者
単身世帯数
5,017 世帯

高齢者のみ
世帯数
3,102 世帯



「認知症高齢者」
認知症高齢者の日常生活自立
度判定基準Ⅱa以上の方をい
う。

介護保険認定者数
2,840 人 / 18,563人中

介護保険認定率
15.3%

※1

認知症高齢者数
2,047人 / 2,840人中

認知症高齢者率
72.7%

※2

※1: 第1号被保険者のみ

※2: 第1号被保険者で、介護認定を受けている者

浦添市と浦添市医師会

浦添市と浦添市医師会の連携についてですが、平成4年に浦添市医師会が創設され、保健、福祉分野を中心に協力関係を構築してきました。平成9年に病診行連携を初め、平成14年に庁舎内に「浦添市メディカル・インフォメーションセンター」を開設し、市民に良質な医療を提供するための体制を整え、医療・健康などを中心に相談業務や医療ニーズに応じた必要な情報提供、関係機関への連絡調整等を行ない、地域医療の発展に資すること及び市民福祉の向上を図っておりました。毎年、浦添市医師会と市の健康部・福祉部との意見交換会も行っており、幅広い意見を交わしながら顔の見える関係づくりを築いております。他にも「うらそえ市民公開講座」や「在宅医療ネットワーク市民公開講座」の開催など医師会を中心に開催しています。今後は高齢化社会に向けて地域包括ケアシステムの構築が問われており、医療との連携強化は必須となります。医師会を中心に常に連携を図りながら行政と医療との充実した関係を築いていき、医療・介護・福祉・保健の連携を密にしながら、これからの在宅医療・介護推進へ向けても協働して、健康で安心安全な地域づくりに邁進してまいります。

浦添市と浦添市医師会の協働の歩み

連携・協働の幅

時間

H14年度～市医師会会合(二水会)へ定例参加

H19年度～医療介護連携研修会開始

H20～22年度健康情報活用基盤実証事業

H24年度浦添市医師会 在宅医療連携拠点事業開始

H14年度～休日予防接種事業 予防接種ステーション病院委託

H19年度～浦添市医療・歯科診療機関一覧表作成 全世帯配布開始

H16年度 3kg減量 市民大運動開始

H14年度浦添市メディカル・インフォメーションセンター開設

平成20年

平成21年

平成22年

平成23年

平成24年～

H11年度～病児保育(小児デイケア)事業病院委託

平成15年

H16年度～浦添市民公開講座開始(共催)

H21在宅医療ネットワーク発足

H22年度健康情報活用基盤実証事業シンポジウム

H23年度～在宅医療ネットワーク 定例会 市会場提供開始

平成10年

H12年度 介護保険法施行 認定審査会委員 医師派遣

H21年度 かかりつけ医に関するアンケート調査

H22～在宅医療ネットワーク 市広報、メディカルナビでの広報開始

H23年度浦添市医師会地域見守り実証事業開始

平成5年

H9～病診連携講演会

H4年 浦添市医師会創設36医療機関

乳幼児健診・集団予防接種事業・小中学校健診、保育所健診事業における医師派遣

平成22年度～糖尿病週間健康相談会 共催

H26市内医療機関 87カ所に増加

在宅医療・介護連携に関する現況

平成21年に浦添市医師会が県内で先駆けて、在宅医療に関連するネットワークを設立し、浦添市在宅医療ネットワークと名付けました。一方、在宅医療ニーズの増大に対し、浦添市ではメディカル・インフォメーションセンターを中心に在宅療養診療所及び在宅医療を行なう医師・訪問看護師等が不足していることから、在宅医療の理解、普及に向けての後方支援を行なってまいりました。平成20年度から三年間（総務省・厚労省・経産省）のITを活用した三省連携健康情報活用基盤実証やiPadを利用した地域見守り実証事業（平成23年度経産省）並びに在宅医療連携拠点事業（平成24年度厚労省）等が浦添市在宅医療ネットワークを中心に事業を実施してまいりました。また地域の医療・介護関係者による多職種連携研修会や定期的に行われる症例検討会・意見交換会での多職種間のネットワークづくり、関係機関が協力のもと医療・介護・福祉資源マップの作成などを連携・協働して取り組んでいます。今後ますます医療と介護を含めた包括的な支援体制の構築に向け浦添市医師会と浦添市が一体となり取り組んでいきたいと考えております。

これからの在宅医療・介護連携

平成27年度から介護保険法改正に伴い、在宅医療・介護連携の推進が地域支援事業の中に位置づけられます。浦添市は、これまでのメディカルインフォメーションセンター運営事業については、これを終了し、その成果を踏まえ、新たな事業として、引き続き浦添市医師会と連携し、今後、市町村の必須事業となる「在宅医療・介護連携推進事業」に移行しました。浦添市では、浦添市在宅医療ネットワークが中心となり市民が安心して在宅医療を受けられるよう在宅主治医と病院、専門医・歯科医師、介護や看護といった様々な多職種が連携を行って、質の高い在宅医療の提供を行なっていますが、今後急速に高齢者人口が増えることが予測されます。地域包括ケアシステムの要素の一つである医療においても、急性期医療からの早期かつ円滑な在宅への復帰を可能とする体制整備や在宅サービスの充実、在宅等での看取りの体制整備などを整え、地域包括ケアシステム構築の充実に向け、浦添市在宅医療ネットワークを中心に浦添市と浦添市医師会や多職種関係機関と常に連携を図りながら取り組んでいきたいと考えています。



● 浦添市医師会

設立:平成4年4月

会員医療機関:84機関、会員数228人(H24.12.31現在)

病院:7 診療所:77(うち有床診療所:12)

● 浦添市在宅医療ネットワーク

設立:平成21年1月

構成:浦添市医師会の在宅療養支援診療所-11 診療所

連携病院 - 6病院 協力医(病院医師、専門医、歯科医師) - 32人

H25年度から在宅医療に関わる多職種も協力会員として参加

H26年度から那覇市医師会会員の3在宅療養支援診療所が

機能強化型在宅療養支援診療所のグループに参加

浦添市在宅医療ネットワーク 毎年度 基本活動内容

訪問診療支援事業

訪問診療依頼実績

世話人会

症例検討会

意見交換会

研修会 在宅医療連携推進のための医師研修会・多職種研修会

市民公開講座

正会員・準会員の拡充

広報活動：広報うらそえ・メディカルナビ

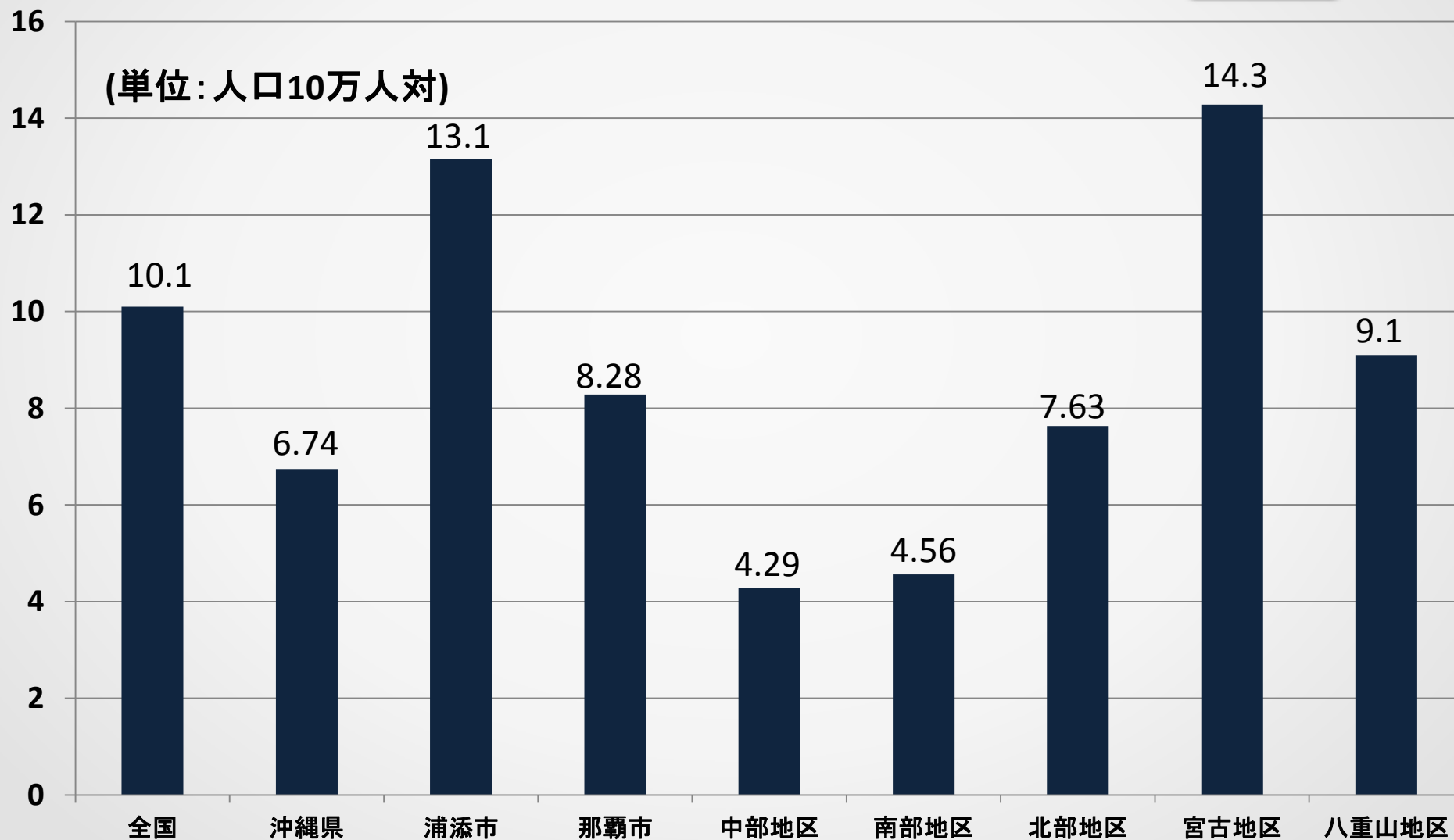
浦添市医師会ホームページ内掲載

パンフレットの作成

学会発表・雑誌投稿

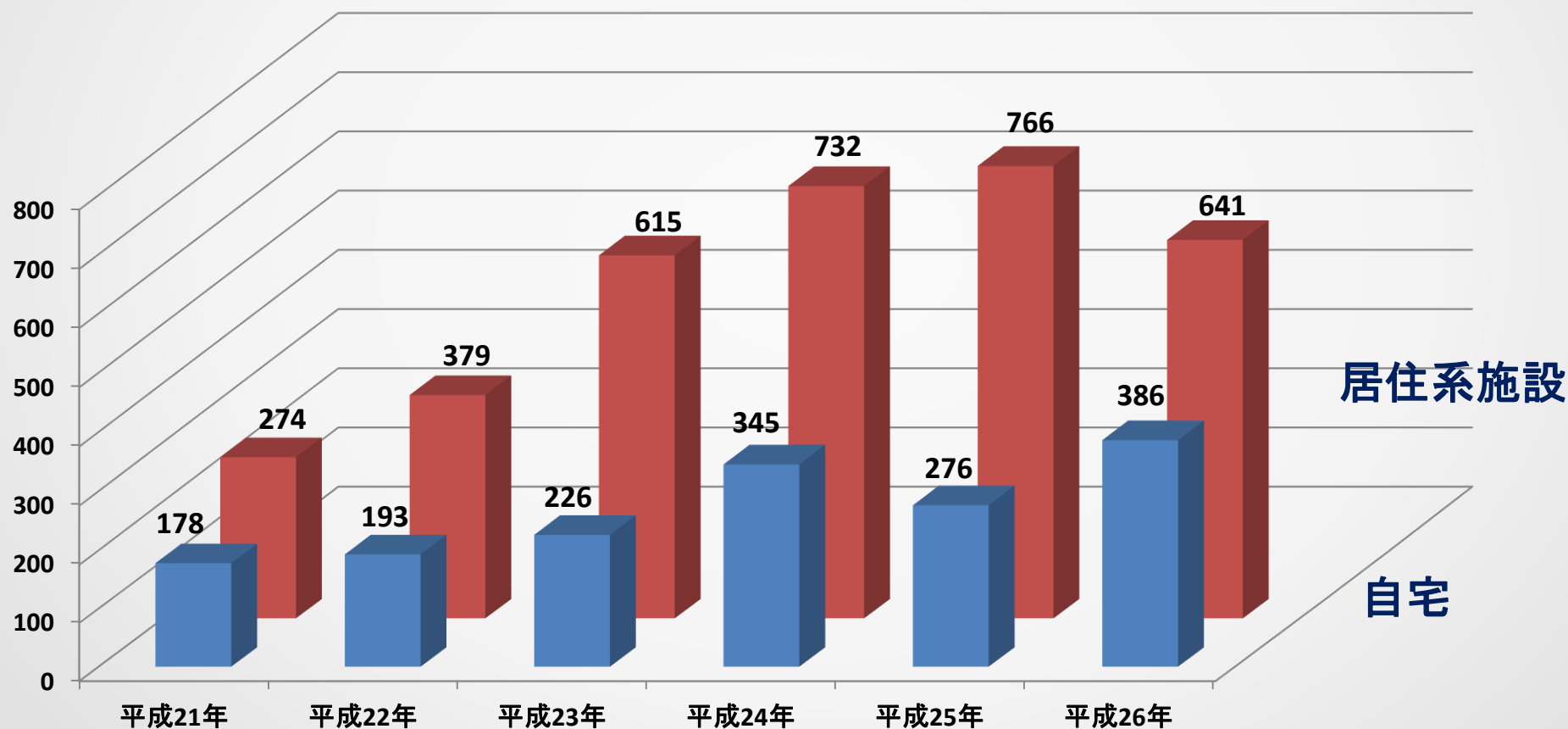
在宅療養支援診療所数：(地区医師会別)

2015年1月5日現在



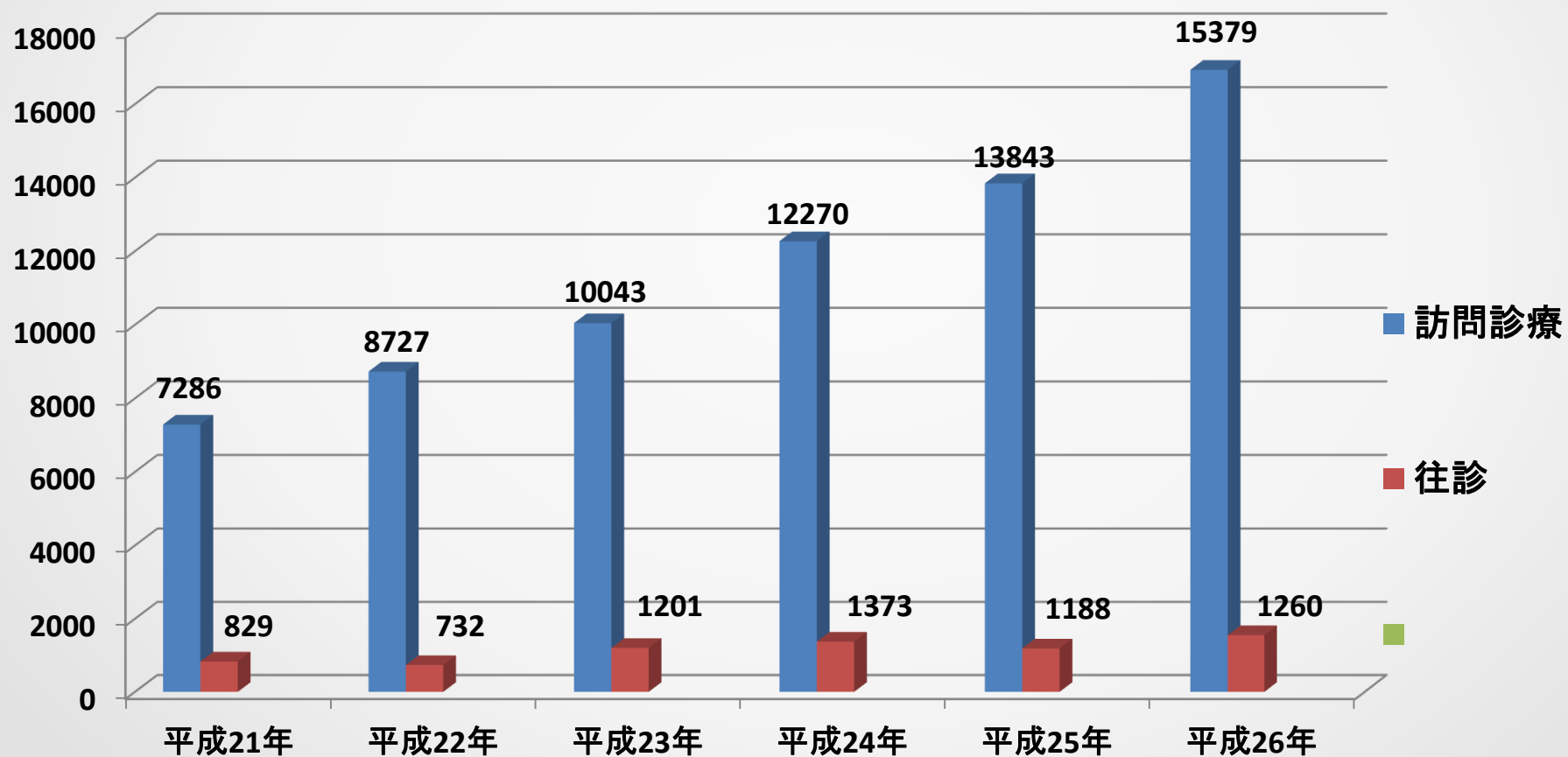
浦添市在宅医療ネットワーク・訪問診療登録実人数

平成21年～平成25年：11診療所
平成26年：15診療所

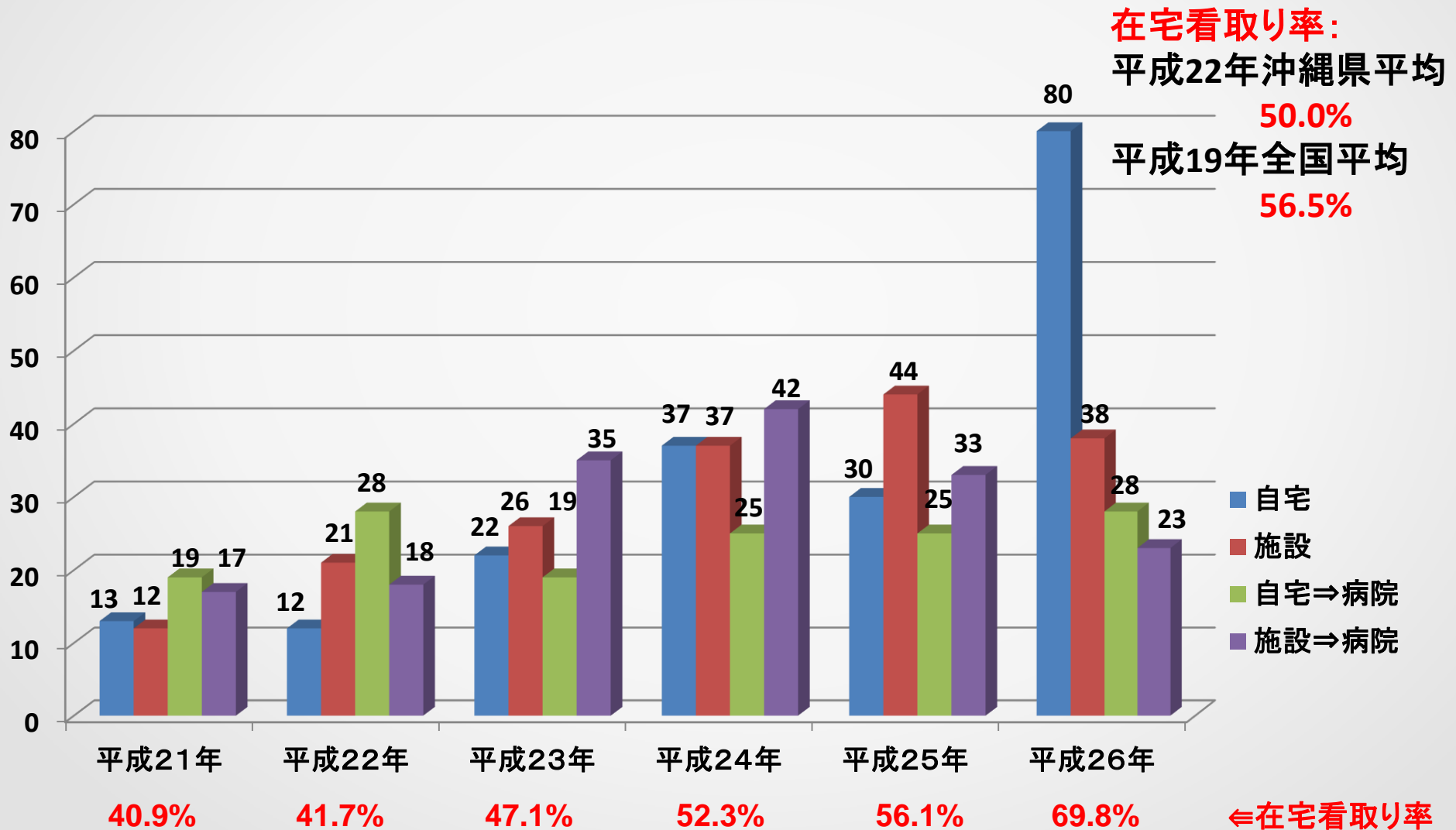


浦添市在宅医療ネットワーク・訪問診療・往診 総件数

平成21年～平成25年：11診療所
平成26年：15診療所



浦添市在宅医療ネットワーク 年別の看取り総数 (人数)



平成24年度厚生労働省 実証事業 (復興枠として)

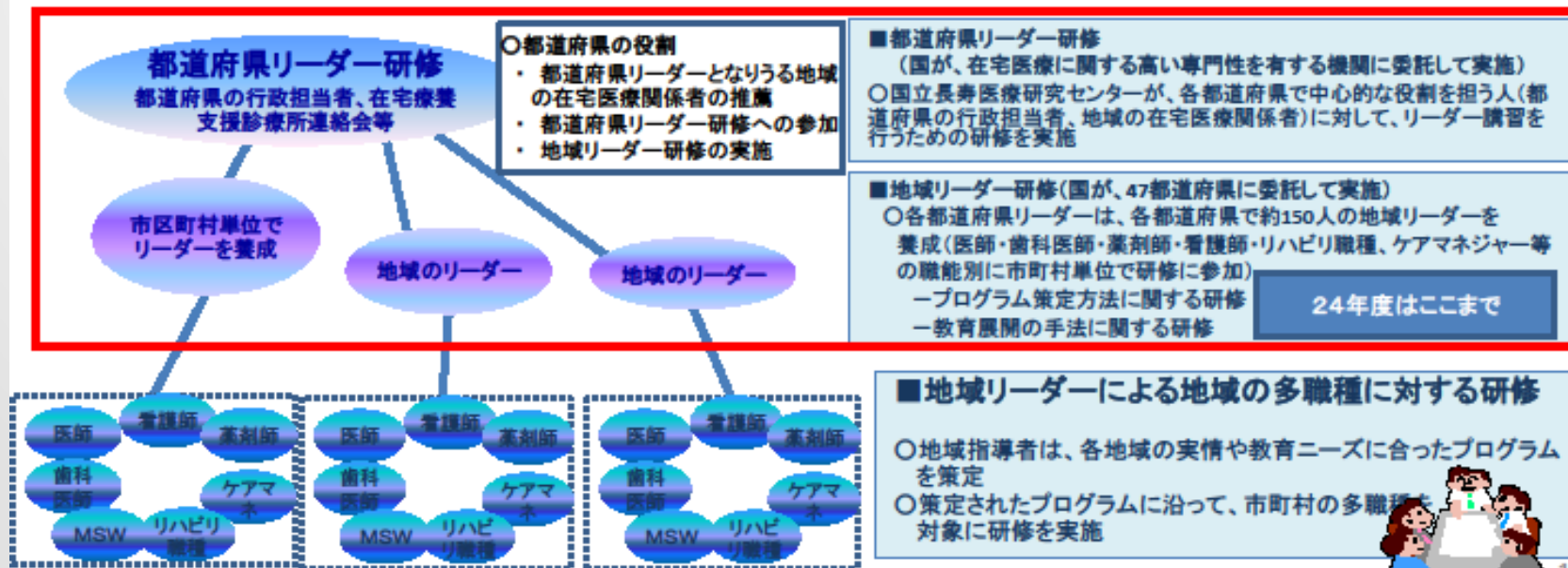
1. 在宅チーム医療を担う人材育成

■多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成事業

■本事業の目的

- 在宅医療においては、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、リハビリ職種、ケアマネジャー、介護士などの医療福祉従事者がお互いの専門的な知識を活かしながらチームとなって患者・家族をサポートしていく体制を構築することが重要である
- 国が、都道府県リーダーに対して、在宅医療を担う多職種がチームとして協働するための講習を行う(都道府県リーダー研修)
- 都道府県リーダーが、地域リーダーに対して、各地域の実情やニーズにあった研修プログラムの策定を念頭に置いた講習を行う(地域リーダー研修)
- 地域リーダーは、各地域の実情や教育ニーズに合ったプログラムを策定し、それに沿って各市区町村で地域の多職種への研修を行う。これらを通して、患者が何処にいても医療と介護が連携したサポートを受けることができる体制構築を目指す

※WHO(世界保健機関)は、「多職種協働のためには、多職種の研修が重要である。」と推奨している。(2002年)



かかりつけ医の動機づけ



多職種チームビルディングの促進



在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会
12月19日 4:47

10月16日（金）に国立
医療医療研究センター
と東京大学で「第2回
全国在宅医療・介護連
携研修フォーラム」が

東京大学薬学部
在宅学教育拠点

独立行政法人
国立長寿医療研究センター
在宅連携医療部



東京大学
The University of Tokyo

お知らせ

- 2015年10月8日 東京都大田区「大田区かかりつけ医スキルアップ研修」の開催を報告しております。NEW
- 2015年10月8日 2015年10月10日「第2回 全国在宅医療・介護連携研修フォーラム」の、オブザーバー（後編）参加の申し込みは締め切りました。たくさんのお申し込み、ありがとうございました。NEW
- 2015年10月2日 2015年10月10日「第2回 全国在宅医療・介護連携研修フォーラム」の、オブザーバー（後編）参加の申し込み受付期間を10月8日まで延長します。
- 2015年9月14日 2015年10月10日「第2回 全国在宅医療・介護連携研修フォーラム」の、オブザーバー（後編）参加の申し込み受付を開始しました。
- 2015年9月1日 「実績」ページに東京都北区第3回研修会の開催を掲載しました。

開催予定

- 平成27年度厚生労働省科学研究費補助金（地域医療基盤構築推進事業）
第2回 全国在宅医療・介護連携研修フォーラム
主催：国立長寿医療研究センター 東京大学高齢社会総合研究機構ノミクス在宅医療学拠点
開催日：2015年10月16日（金）
場所：アットビヨウズ東京駅前大通り（東京都千代田区）
対象者：都道府県在宅医療・介護連携推進委員会
オブザーバー参加対象：在宅医療・介護連携推進事業に関わる方（自治体、医師会等）
募集期間（即決型）※
※都道府県単位、オブザーバー単位とらに募集は終了しました。（10月8日）
※詳細は「全国ネットワーク」ページをご覧ください。
- 東京都大田区 大田区かかりつけ医スキルアップ研修
主催：大田区役所 大田区民会 大田区医師会
開催日：2015年11月15日（日）
場所：大田区民会3階ホール（東京都大田区）
プログラム（PDF）※
後援者の参加申し込みを受け付けております。
○医師会関係者の方：東京都医師会ホームページよりお申し込みください。
○医師会関係者以外の方：厚生労働省医務局までお申し込みください。申込みFAX用紙はこちら※
※申し込み期限：10月30日（金）
※お申し込みの状況によっては、開催地に集めざる場合があります。全ての方のご希望に添えない場合がございます。ご了承ください。
- 東京都北区在宅医療多職種連携研修会 平成27年度第2回
主催：北区在宅ケアネット
開催日：2015年11月14日（土） 12月20日（日）
場所：北とび707号 第二研修室（東京都北区）

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

更新履歴 お問合せ

在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会

更新履歴 お問合せ

トップページ 概要 運営ガイド 実績 資料 全国ネットワーク

トップページ 概要 運営ガイド 実績 資料 全国ネットワーク

基本研修資料 領域別セッション 主催者・講師向け

基本研修資料 領域別セッション 主催者・講師向け

基本研修資料

- > 総論
- > 地域連携
- > 実践事例
- > 領域別セッション
- > 総論
- > 在宅実践事例

基本研修資料

※プログラム動画視聴について

動画コンテンツは、「CareNet.com」を利用して視聴しています。
 プログラム動画(番組)をご覧いただくには、「CareNet.com」の会員登録(無料)が必要です。
 CareNet.comは10万人以上の医師が利用している医療学習メディアです。医療ニュース、研修ガイドライン解説、
 RealMed、オンライン症例検討会などによって先進の医療学習をサポートしています。

	時間	形式	資料(PDF)	動画		
				前 第2回	中 第1回	前 第3回
全資料						
総論						
在宅医療が何とすべきか	30分	講義				
在宅ケアにおいて医師PW(専門職連携)が必要なのか?	30分	講義				
地域連携の概要						
在宅医療を支える医療・介護関係	15分	講義				
医療介護連携マップの作成	40分	演習				
各論事例						
在宅医療の導入	30分	講義				
居宅診療の概要と在宅診療の概要	30分	DVD視聴 (在宅診療のみ)				
在宅医が知っておくべき最新情報	30分	講義				

領域別セッション
 ※このセッションは領域別セッションに置き換えて視聴することができます。

領域別セッション

- > 認知症
- > がん緩和ケア
- > 摂食・嚥下・口腔ケア
- > 実習
- > 演習
- > リハビリテーション
- > 医療従事者

領域別セッション の動画作成中

領域別セッション

- 領域別セッションは、基本研修資料の「認知症」「がん緩和ケア」の他に在宅医療・介護において直面する機会が多く、更に多職種での連携が必要と考えられる4つのテーマを加えた計6テーマの研修コンテンツを作成しています。
- 基本的には講義40分、事例検討30分の計120分で構成されており、基本研修資料の「認知症」「がん緩和ケア」に置き換えることができます。

認知症

- アルツハイマー型認知症を中心とした講義の後、行動心理療法(BPSD)のある症例について多職種グループワークを行う機会となっています。
- 本セッションは、多くの職種の方にとって身近なテーマであることから、研修の早い段階で用いやすいテーマです。

タイトル	時間	形式	資料(PDF)	動画
①認知症の基本的理解	40分	講義		
②事例検討：行動心理療法(BPSD)へのアプローチ	60分	演習		
③ミニレクチャー：行動心理療法(BPSD)へのアプローチ	15分			
	120分 (調整5分)			

がん緩和ケア

- がん患者に携わる際に必要となる基礎知識や最新の事について学んだ後、がん末期の症例を通してグループワークを行います。
- 各グループに講師陣が1名含まれていることが望ましいです。

タイトル	時間	形式	資料(PDF)	動画
①がん研修資料に必要な知識	40分	講義		
②事例検討：がんの現状資料と多職種による在宅療養支援	60分	演習		
③ミニレクチャー：がんの現状資料と多職種による在宅療養支援	15分			
	120分 (調整5分)			

摂食・嚥下・口腔ケア

- 摂食・嚥下への対応の基本、口腔ケアを講義形式で学んだ後、栄養摂取方法、嚥下リハビリテーションをテーマに多職種グループワークを行います。
- 各グループに資料支援または資料作成士、言語聴覚士が1名含まれていることが望ましいです。

タイトル	時間	形式	資料(PDF)	動画
①摂食・嚥下への対応の基本	40分	講義1		

1. 多職種意見交換会の定期的開催

【目的】 具体的な症例検討を通じた多職種のスキルアップ・連携上の課題の抽出のため

【参加職種】

医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、医療ソーシャルワーカー、介護福祉士、施設管理者、理学療法士、栄養士、行政、コミュニティーソーシャルワーカー

【基本プログラム】

- ・在宅療養支援診療所医師による症例報告及び検討
- ・多職種による意見交換

症例検討会・意見交換会参加者・浦添市在宅医療ネットワーク

	医師	歯科医師	薬剤師	看護師	MSW・CSW	ケアマネ	市役所職員 (包括含む)	PT・OT・ST	介護士	その他	合計
H23.7.26	8	6	4	16	7	20	3	2	21	4	91
H23.9.27	7	2	7	12	2	14	2	2	26	3	77
H23.11.29	7	5	2	7	3	11	3		7	2	47
H24.3.27	9	6	9	9	3	14	2		8	1	61
H24.5.22	7	3	6	2	4	3	7			10	42
H24.7.30	8	7	8	4	2	10	5			6	50
H24.9.26	9	4	7	8	9	11	5	1		5	59
H24.11.30	8	4	5	10	5	13	2	1	1	6	55
H25.1.31	10	2	7	7	8	7	2	2	1	3	49
H25.3.10	13	8	14	14	13	13	1	2	4	77	158
H25.7.26	11	4	1	4	6	5	2			7	40
H25.11.27	9	5	1	9	4	5	2	2	1	9	47
H26.1.31	10	3	4	11	6	11				10	55
H26.5.27											48
H26.7.29	7	4		12	5	7		1	1	14	51
H26.9.29	6	3	2	9	3	9				13	45
H26.11.27	9	1	2	11	8	9	1			4	45
H27.1.27	6	1	1	1	3	10	1	1		3	27
H27.3.15	9	1	7	25	15	36	3	26	7	9	138
H27.5.26	16	3	3	8	5	5	3	2	1	4	50
H27.7.27	7	5	3	13	3	21	5	1	4	7	69

在宅医療の課題について

平成25年1月31日意見交換会(参加:49名)

K-J法を用いたグループワークを行った

在宅医療の課題292個を在宅医療推進・柏-東大モデルプロジェクト・川越らの在宅医療の課題に関する分類【11個の上位カテゴリー(A~K)と26個の下位カテゴリー分類】を基に、優先度の高いものをさらに選び、課題一覧を作成した。

在宅医療の課題一覧

	番号	項目	課題文
連携に関する課題	A. 専門職種間の連携		
	1.	地域の中の連携(多職種連携)	各専門職種間での患者の情報共有が難しい
	2.	地域の中の連携(同職種連携)	病院医と在宅医、看護師同士などの情報共有が不十分である
	3.	医師との連携	医師に気軽に話しにくい。質問しにくい。気後れすることがある
	B. 医療と介護の連携		
	4.	医療と介護の連携	救急できた時に引き継ぎの情報を持ってくる方がほとんどいない 訪問診療時に医師への情報提供がうまく伝えられない
	C. 方針決定や相互理解		
	5.	方針決定プロセス	急変時の対応について本人や家族の理解がない 本人が元気な時にどうしたいのかをはっきりさせていないから介護する家族が迷う
	6.	臨床倫理	胃瘻の考え方の違いがある。医師でも考え方の違いが多い
	7.	相互理解	情報共有や提供について遅れがち(多職種間の職種専門性を理解していない)
	D. 病院と在宅の連携		
	8.	病院から在宅への移行	病院の医療者が在宅医療についての知識が乏しい
	9.	退院調整	退院調整や退院前カンファレンスの開催などが不十分である
	E. 顔の見える関係		
10.	顔の見える関係	コメディカルとお互いの顔が見えない。ケアマネとの連携が不十分	
F. 本人・家族に関する課題			
	11.	サービス利用への障壁	家族が在宅療養に対しての不安がある(医療や介護のサービスの内容や意義などが理解されず、その導入や継続が難しい)
	12.	世帯の抱える問題	現在の病気の状態について患者・家族が理解していないことが多い
	13.	介護力不足	家族や支える介護力が不足・協力が得られない
	14.	経済的問題	医療・介護利用による負担金増による問題により導入の拒否
G. 在宅医療を支える医療体制			
	15.	マンパワー不足	在宅医療に従事する専門職が不足している
	16.	緊急入院先の不足	希望すれば入院できるように(在宅医と急性期病院との連携)・対応に苦慮
	17.	24時間365日対応	24時間対応の医師負担を軽減するための工夫が足りない
	18.	医療依存度の高い患者の増加	医療度の高い患者、痰の吸引が頻回に必要な患者、特定疾患患者が増えているが、その受け入れ体制が不十分である
H. 在宅医療を支える地域資源			
	19.	在宅を補完する病院や施設	PEGの患者・痰の吸引が必要な患者はどこが引き受けてくれるのか、在宅を補完する病院や施設が不足している
	20.	地域資源の把握	災害時の電源確保(吸引器・吸入器等)が不十分。医療機関や事業所の特徴や空き状況の把握ができない
	21.	相談機能	地域の住民(民生委員や協力者)が定期的に訪問したり関わっている時の負担等相談できる所が不足している
I. 在宅医療の非効率性			
	22.	情報にまつわる障壁	情報が分散し患者の情報が共有しにくい
	23.	在宅医療に要する労力	医師や看護師が多大な労力を要している
J. 在宅医療にかかわる諸制度			
	24.	介護保険にまつわる課題	医療保険との兼ね合いや有料老人ホーム等の入居ではデイサービス利用により介護保険限度額の問題がある。
	25.	制度の複雑さ	医療保険と介護保険の両方の介入が必要であり、それらの諸制度が煩雑でわかりにくい
K. 市民への啓蒙不足			
	26.	市民への啓蒙	在宅でどの程度の医療が受けられるのかわからない。市民への啓蒙が不足している

【症例検討会・意見交換会開催を通じて得られた成果】

参加者の広がり

グループワーク形式を通じた相互理解、スキルアップの促進

症例検討会、意見交換会が、以前のような単に顔が見える関係づくりに留まらず、連携に必要なスキルを具体的に高める手ごたえを得られた。

今後も、スキルアップという位置づけを強化したいと考えている。

2「地域見守り情報共有システム」の試験運用

平成23年度経済産業省の事業に参加
平成24年度厚生労働省の事業に参加

セキュリティーや閲覧権限管理が確保された環境下で、PDF化された文書、コメント、写真画像などをWEB上で共有する。

モバイル端末を利用して現場で簡便に記録を入力しPDF化できる。

クリニック(3)、訪問看護ステーション(2)、居宅介護支援事業所(2)、

訪問介護ステーション(1)、薬局(2)の参加により試験運用。

3. 地域における医療・介護福祉資源の把握と最適化のために

①医療・介護・福祉資源マップの作成と公開

医療機関：84 在宅療養支援診療所：14

歯科（訪問可）：10 薬局（訪問可）：7

居宅サービス事業所：103

地域密着型事業所：8

その他のサービス事業所：5

資源の実態を正確に把握し、具体的なサービス利用につなげるため、サービス内容の項目を工夫した。

マップの作成：浦添市地域支援課、地域包括支援センターと協力し、定期的な打ち合わせの開催を通じて、ブラッシュアップを行った。

3. ①浦添市の医療、介護、福祉資源マップ

地理情報システム(GIS)を利用したマッピング

(居宅介護支援事業所)



資源の質について: サービス内容が他事業者十分に理解されていない、事業者同士の連携が不十分など、改善の余地がある。

3. ②浦添市との共同による在宅医療・介護に関する 市民アンケート調査の実施

平成24年度
在宅医療・介護に関するアンケート調査票

平成24年12月

浦添市メディカル・インフォメーションセンター
協力:浦添市医師会

1. 主たる調査目的

- ①浦添市民の「在宅医療」及び「メディカル・インフォメーションセンター」に関する認知度
- ②「在宅での看取り」に関する意識の在り方
- ③災害への関心度

2. 調査の対象

無作為抽出した20歳以上の浦添市民2,000人

3. 調査の期間

平成24年12月25日(火)～平成25年1月31日(木)

4. 調査・回収方法

郵送、返信用封筒にて浦添市が回収

アンケート調査の回収結果

回収数414人、回収率20.5%

80代以上は85.7%、60～70代は6～7割がかかりつけ医がいる。

一方、70代でかかりつけ医がない場合、他の年代に比べて「健康だから必要性を感じない」と回答する割合が大きかった。

在宅医療の認知度は70代以上で5割弱、自宅で最期を迎えたいとの希望は70代31.7%、80代以上で19.0%に留まった。

自宅での最期を希望しない理由としては、家族に負担をかけたくないが8割を占めた。

災害時の対応としては、「避難指示を受けて単独で避難できるか」という問いに対して、70代は「できる」が78.6%だったのに対し、80代以上は38.1%と差が大きい。

80代以上は、市指定の最寄避難場所を知っている割合が28.6%、居住地の海拔を知っている割合が14.3%と、全年代の半分未満に留まっており、80代になると急激に支援ニーズが大きくなることが窺えた。

地域住民への普及・啓発

4.「看取り」をテーマに市民公開講座を開催



●平成24年8月11日(土)

講師:石飛幸三氏

世田谷区立特別養護老人ホーム
芦花ホーム医師

「平穏死のすすめ ～ 口から食べられなくなったらどうしますか～」

パネルディスカッション

- ・在宅療養支援診療所医師
- ・訪問看護師
- ・**看取り経験家族の方**
- ・グループホーム管理者
- ・救命救急センター医師



第2回 浦添市在宅医療ネットワーク市民公開講座

在宅で看取ること

～自宅や居住系施設でのターミナルケア～

入場無料
どなたでも
ご参加
いただけます

総合司会：大瀨 篤（まちなと内科クリニック医師）

I部 基調講演



「いのちの歳時記」

～在宅ホスピス医の宝石箱から～

講師：内藤 いづみ

（山梨県 富士内科クリニック院長）



II部 パネルディスカッション

～会場からの質問にもお答えします～

座長：山里 将進（かじまやクリニック院長）

パネリスト：下地 幸子（名嘉村クリニック在宅ケアセンター部長・看護師）

前里 聖子（看取り経験家族）

名嘉 淳（有料老人ホームぶどうの木代表・理学療法士）

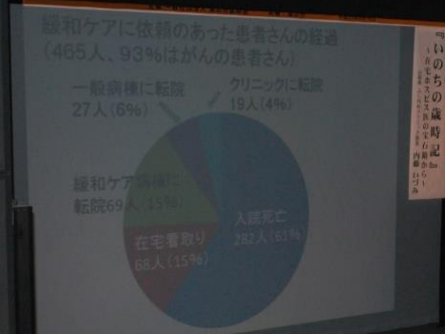
新里 誠一郎（浦添総合病院副院長・緩和ケアセンター長）

- とき：平成25年9月16日(月)
- 開演：13時(開場12時30分) 終演15時30分
- ところ：国立劇場おきなわ 大劇場(浦添市勢理客4-14-1)

- 主催：一般社団法人浦添市医師会 浦添市在宅医療ネットワーク
- 共催：浦添市
- 後援：一般社団法人沖縄県医師会 一般社団法人沖縄県歯科医師会 一般社団法人沖縄県薬剤師会
公益社団法人沖縄県看護協会 財団法人沖縄県総合保健協会 公益社団法人沖縄県学業士会
沖縄県さわやか介護連絡会 一般社団法人沖縄県介護福祉士会 沖縄県グループホーム連絡会
一般社団法人沖縄県介護支援専門員協会 沖縄県訪問看護ステーション連絡協議会(順不)

※公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成を受けています

お問い合わせ先 一般社団法人 浦添市医師会 (浦添市伊弉3-3-17アルマーレ101) TEL.874-2344 FAX.874-2382
URL: <http://www.uraishi.or.jp>



5. 災害発生時に備えて

①浦添市医師会版ハザードマップの作成、公開

②台風17号大規模停電に関する緊急アンケート

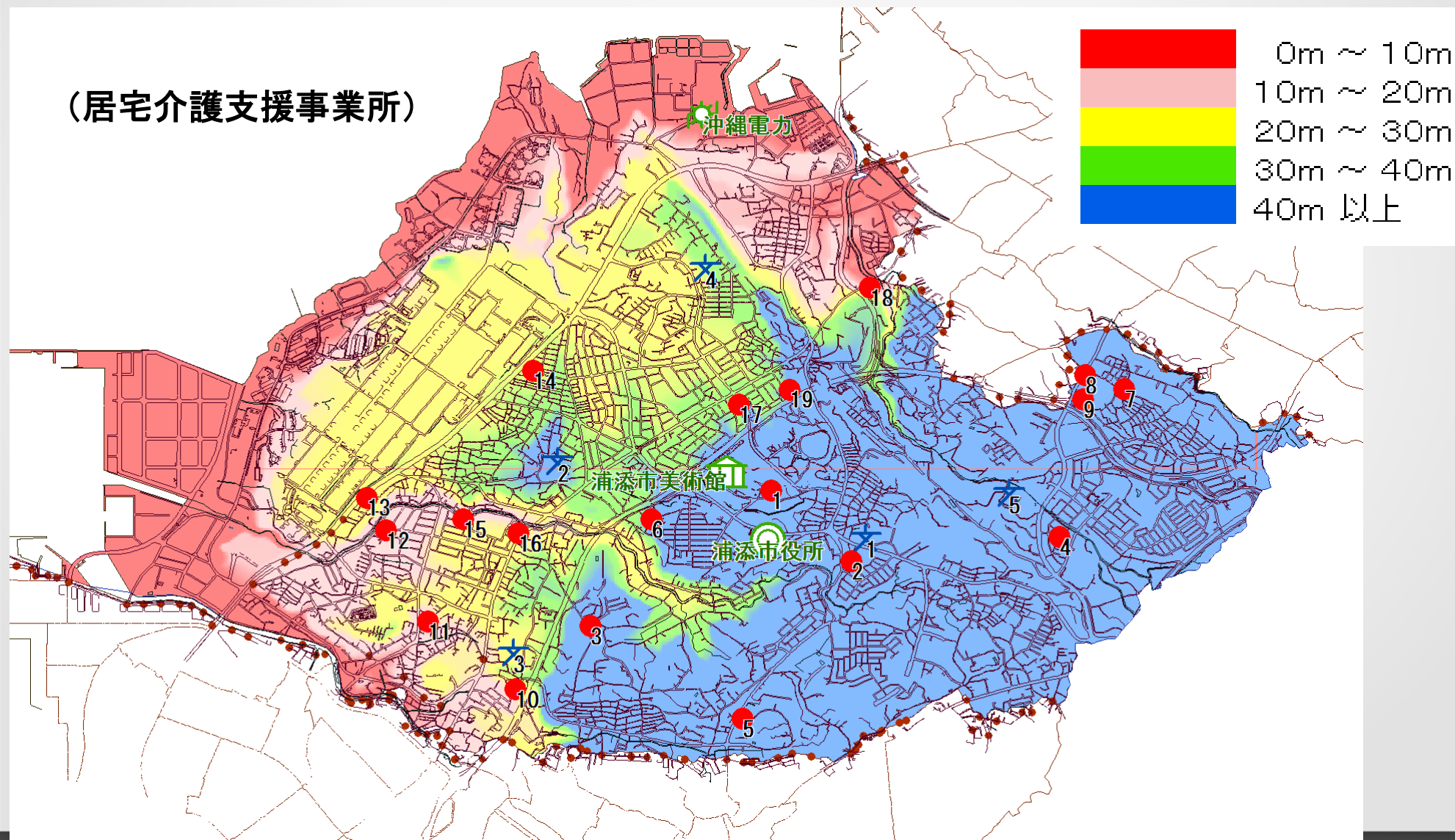
※台風17号

平成24年9月29日に沖縄本島に襲来。那覇で瞬間最大風速61.2mを記録した。沖縄電力管内の半数を超える33万戸で最長3日間に及ぶ停電のほか大きな被害が発生した。

①浦添市医師会版ハザードマップ

地理情報システム(GIS)による標高データの重ね合わせ

(居宅介護支援事業所)



②台風17号の大規模停電への対応に関する緊急アンケート

【実施期間】 平成24年10月3日～10月10日

【実施対象】 浦添市在宅医療ネットワークに参加する在宅療養支援診療所
及び訪問看護ステーション 計19事業所

【結果概要】

- ・各診療所・事業所が実施した緊急対応としては、関係機関への取り次ぎ、緊急入院、電話連絡、バッテリーや緊急ボンベの確認などであった。
- ・緊急時対応に関する内規を整備している診療所・事業所は2割にとどまった。
- ・緊急時連絡網が整備されている診療所・事業所は6割であった。
- ・緊急時に対応可能な病院や施設との連携が重要との意見が寄せられた。

在宅医療推進のための多職種連携研修会の開催

【日時】平成25年3月10日 9:30～17:00

【場所】浦添市中央公民館

【対象】在宅医療に従事または従事予定の多職種

【参加】研修参加：84名、傍聴参加：74名

(医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネ・介護福祉士・ソーシャルワーカー・栄養士・理学・作業療法士・地域包括・行政・その他の職種)



拠点事業に配置された専門職による取り組み

①看護師 + ケアマネジャー

②ソーシャルワーカー + ケアマネジャー

・多職種連携(意見交換会・研修会)のコーディネート

・アウトリーチ

介護・福祉等の事業所へ訪問。ヒアリング及び医療上、制度上の助言

自治会などで開かれる地域ケア会議への参加

病院の地域連携室や在宅支援診療所のサービス担当者会議にオブザーバー参加

・地域における医療福祉資源の把握、最適化

地域における医療・介護・福祉資源の把握及びマップ作成・公開
在宅医療や看取りに関する市民の意識調査(アンケート)の実施

事業を実施していく中で

- ・在宅医療に携わる医師をはじめ、多職種モチベーションが上がりました。
- ・ディスカッション(GW)を通じて多職種間の交流と課題の共有ができました。
- ・多職種による情報共有の重要性、必要性があらためて確認されました。
- ・医師会と行政、地域包括支援センター、社協との連携が確立されました。

平成26年度 在宅医療推進のための多職種連携研修会プログラム

主催：浦添市医師会 共催：浦添市

【日時】平成27年3月15日(日)

【場所】浦添市中央公民館3階ホール

〒901-2114 浦添市安波茶1丁目1-2

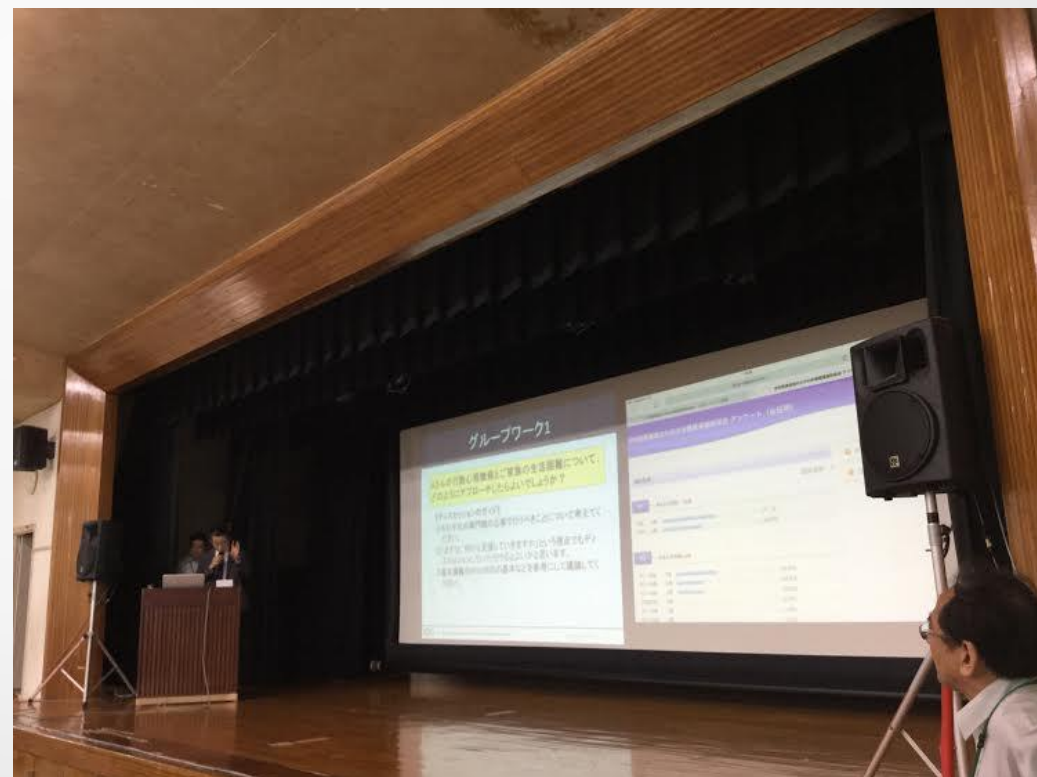
TEL:098-879-5503

進行：大濱 篤

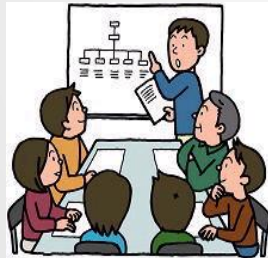
時刻	タイトル	講師等	分類	時間
13:10	主催者代表挨拶	池村 剛 (浦添市医師会 会長)		
13:15	挨拶	松本 哲治 (浦添市長)		
13:20	①「地域ケア会議について」	松原 枝里子 (浦添市地域支援課 保健師)	講義	30
休憩				10
14:00	② 認知症の基本的理解	城間 清剛 (城間クリニック院長)	講義	40
14:40	③ 事例検討(グループワーク) 行動心理療養(BPSD)へのアプローチ		演習	60
休憩				15
15:55	④ 在宅でのリハビリテーションの取り組み方	伊志嶺 恒洋 (にこにこ整形外科院長)	講義	40
16:35	⑤ 事例検討(グループワーク) 脳卒中での在宅リハビリテーションの導入事例		演習	60
17:35	受講証書発行 アンケート記入		他	10
17:45	総括・閉会挨拶	山里将遠 (かじまやクリニック院長)	他	

※プログラムは変更する場合がございます。

講演中にアンケート調査を行い、この結果を掲示した(無料webアプリ・アンケートツクレールを利用)



在宅医療・介護の連携事業



- (ア) 地域の医療・介護サービス資源の把握・マップの見直し
- (イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応の協議のグループワーク継続
- (ウ) 24時間・365日の在宅医療・介護サービス提供体制の構築（主治医・副主治医等のコーディネート）
- (エ) 在宅医療・介護サービスの情報の共有支援
- (オ) **在宅医療・介護連携支援センターうらっしーの運営開始**
（在宅医療・介護連携に関する相談の受付等）
- (エ) 在宅医療・介護サービスの情報の共有支援
- (カ) 在宅医療・介護関係者の多職種研修会開催の継続
- (キ) 地域住民への普及・啓発
- (ク) 二次医療圏内・関係市区町村の連携の構築・強化

浦添市在宅医療・介護連携支援センター

URASSHII



うらっしーのロゴ

ホーム

★ 新着情報

センターについて

活動内容

在宅医療・介護事業所マップ

リンク集



浦添市 防災マップ



浦添市 AED設置場所
29ヶ所

サイト案内・写真



浦添市在宅医療・介護連携支援センター

〒901-2132 浦添市伊柄3-3-1 アルマーレ101号(浦添市商工会事務局内)

TEL.098-874-2344

FAX.098-874-2362



浦添市在宅医療・介護連携支援センター

在宅医療・介護・福祉・保健 でつながる 笑顔の輪



在宅医療・介護事業所マップ



医療機関マップ

平成27年度 在宅医療・介護連携のための 多職種連携研修会

公益財団法人医療連携推進財団が主催です

日時: 平成27年9月27日(日)

時間: 13:00~18:00(予定)

会場: 浦添市商工会事務局3階大会議室

参加申込み
受付中!



浦添市在宅医療・介護連携支援センター
「うらっしー」ロゴマーク
デザイン募集中!

平成27年度前期 在宅医療・介護推進のための多職種連携研修会 プログラム（案）

主催：一般社団法人 浦添市医師会
（浦添市在宅医療・介護連携支援センターらっしー）

共催：浦添市・浦添市介護支援専門員連絡会

平成27年9月27日（日）13:00～18:00

浦添市社会福祉センター・3階大研修室

進行：大嶺 篤（浦添市在宅医療ネットワーク代表世話人）

時刻	タイトル	講師等	分類	時間
13:00	主催者代表挨拶（浦添市医師会）	池村 剛 （浦添市医師会会長）		5
13:05	挨拶（浦添市）	松本 哲治 （浦添市長）		5
13:10	浦添市の認知症施策について	松原 枝里子 （浦添市地域支援課 保健師）	講義	20
小休憩				5
13:35	①領域別セッション「認知症」	城間 清剛 （城間クリニック院長）	講義	40
14:15	グループワーク		演習	80
休憩				15
15:50	②領域別セッション「口腔ケア」	高良 孔明 （高良歯科医院副院長）	講義	40
16:30	グループワーク		演習	80
17:50	アンケート記入			5
17:55	総括（共催者代表）	大嶺 淳子 （浦添市介護支援専門員連絡会会長）		5

18:00 閉会

*プログラムは変更となる場合がございます。



ビデオ会議形式：浦添市主会場と宮古島市(1グループ)の遠隔地を結んで双方向の画像及び音声による会議(研修会)を行った。(画像：U-stream、音声：Skypeを使用)



平成27年度前期 在宅医療・介護推進のための多職種連携研修会

開催日時：平成27年9月27日(日)13:00～18:00

開催場所：浦添市社会福祉センター・3階大ホール

主催：浦添市医師会(浦添市在宅医療・介護連携支援センターうらっしー)

共催：浦添市、浦添市介護支援専門員連絡会

参加人数： (研修参加) 126名 *宮古グループ含む
 (傍聴) 39名
 (講師) 3名
 (事務局) 7名 *司会の大塚医師含む
 (実行委員) 4名
合計 179名

<参加職種内訳>

職種	人数
医師	7
歯科医師	7
看護師	19
薬剤師	8
保健師	5
栄養士	2
理学療法士	18
作業療法士	9
言語聴覚士	2
歯科衛生士	3
医療ソーシャルワーカー 社会福祉士	15
介護支援専門員	37
介護福祉士 介護職員	19
管理者・生活相談員等	5
認知症地域支援推進員	2
保健相談嘱託員	2
その他(薬局事務・学生等)	3
計	163

<参加地区内訳>

職種	人数
浦添市	104
那覇市	18
西原町	9
宮古島市	6
うるま市	5
豊見城市	3
南城市	3
名護市	3
与那原町	3
沖縄市	2
北谷町	2
八重瀬町	1
北中城村	1
恩納村	1
宜野湾市	1
南風原町	1
計	163

(案)

関係機関 各位

一般社団法人 浦南市医師会
会 長 池 村 剛
地域医療担当理事 大 廣 篤

地域医療・介護・福祉・保健連携支援関係者による事例検討会の開催について
(ご案内)

初秋の候、地域医療・介護・福祉・保健連携関係者の皆様におかれましては、当医師会へのご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、去る8月29日に開催した第1回地域医療・介護連携支援関係者による情報交換会におきましては、医療・介護・福祉・保健連携機関の多くの皆さまにご参加いただき、終了後のアンケート結果では、「今後取り進みたいこと」において、実際の事例を通しての事例検討会や意見交換会という希望が多く挙げられていました。

そこで今回は、入院時のより良い連携ができることを目的に、マインドマップを使った事例検討会を下記のとおり開催いたします。各関係機関の皆様お忙しい中ではございますが、ぜひご参加の程よろしくお願いたします。

なお、別紙参加申込書を10月16日(金)までにFAXにてご返送下さいますようお願い申し上げます。

記

- 開催日時 : 平成27年10月23日(金) 18:30～20:30
- 開催場所 : 浦南市社会福祉センター3階大研修室
- 参加予定機関 : 市内医療機関の地域連携室(MSW) *入院に関わる看護師等
地域保健福祉センター(CSW) 地域包括支援センター
*浦南市介護支援専門員連絡会 浦南市地域支援課
*「見える事例検討会ファシリテーター講座」受講者

※提供事例については現在調整中です。

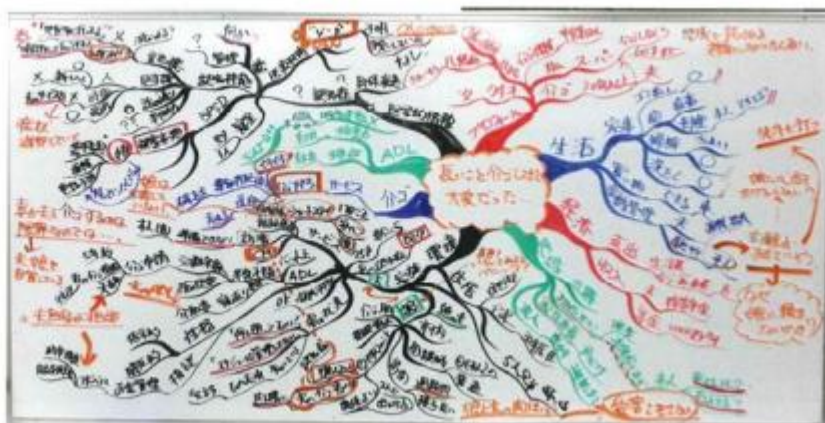
<連絡先>

在宅医療・介護連携支援センターうらっしー
(一般社団法人 浦南市医師会 事務局内)
担当 : 奥屋・平良
TEL : 098-874-2344
FAX : 098-874-2362

「多職種による見える事例検討会」参加のご案内

『見える事例検討会（通称：見え検）』とは、多職種・多部門で行う事例検討を可視化（見える化）したものです。独自の進行手順とファシリテーション手法に基づき、可視化ツール（「見え検マップ」と「アクションプラン型エコマップ（見え検式エコマップ）」）を用いて行います。多職種・多部門の参加者が情報・状況を共有し、課題分析を行い、解決の糸口を見つけ、アクションプランをつくっていく事例検討の手法です。

終了時の見え検マップ



大瀬医師との定期連絡会議

日時：平成27年10月9日（金）17：30

場所：まちなと内科在宅クリニック

参加者：大瀬（まちなと内科在宅クリニック）

貞屋、平良（医師会事務局）

＊浦那市医師会関連（在宅医療ネットワーク、連携支援センター）

- ①マインドマップ事例検討会（10/23）について 18時30分～19時 社協
神長 中 学 取
マインドマップ：貞屋
入道院の連携について ファシリテーター：ひやま、宮城さん
- ②世話人会（10/24日）について 19時30分
司：やか 事務局：石田さん

- ③市民公開講座第2回実行委員会（10/30）について

むけく 会社？ (10/19)
まにしんちく石原さん 予行やでまらば行く。

- ④多職種意見交換会（11/13）について

・病院から在宅へのターミナルケアの移行支援について
ケアマネジャー：仲盛 恵美子（居宅介護支援センターとよむ）
MSW：かけはし（※調整中） 石原さん 同和HP

- ⑤後期多職種連携研修会（2/6 or 2/7）について 遠征先のフランス：石原、宮城さん

・伊志嶺先生…土曜日であれば午後1時開始には来場が間に合わない。講師の受任は承諾。

・地域支援課…地域支援課ありきでなく、医療・介護・福祉・保健に携わる多職種が関連する担当課や社協にも講義を担ってもらってはどうか？

生活のこころいしな
■社協支援セリヤれたるで、 | 支援係（社協担当）

＊第1回目の実行委員会について → 11月下旬には開催したい 社協：社協

＊実行委員会メンバーについて

大瀬医師、山原医師、伊志嶺医師、地域支援課（上岡主査）、地域包括ケア
リハビリ系代表（PT・OT・ST）、社協 石原さん

次回：10月 19 日（月）

19時～
予行の前に行く。

これから

- ・ヒューマンネットワークに基礎をおいたICTの導入と運用を図ります。
- ・在宅医療・介護・福祉・行政が協働して多職種のスキルアップと標準化を進めます。
- ・地域見守りの核となる在宅医療ネットワークを目指します。

ご静聴ありがとうございました。

2014/1/16 16:13